

特別講演

神戸市立灘区文化センター
神戸市立小磯記念美術館 共催

時をかける版画

多彩な作家と作品の魅力



小磯良平《フェルナンドの肖像》1935
リトグラフ 大野ギャラリー蔵

「時をかける版画 小磯良平の版画と藝大版画研究室の人々」展は、小磯良平（1903-1988）と版画をめぐる人々に特化した初めての展覧会です。

第1章「小磯良平の銅版画と石版画」では、戦前に神戸の印刷会社でリトグラフを試みた若き日の作品から紹介します。小磯良平は1950年より、東京藝術大学美術学部油画科で教鞭をとり後進を指導しました。1958年に学部長だった伊藤 廉とともに版画教室の開設に尽力したことが知られています。

第2章「東京藝術大学 版画教室の指導者たち」では、版画を教えた小野忠重（1909-1990、木版画）、脇田 和（1908-2005、石版画）、駒井哲郎（1920-1976、銅版画）の作品を紹介します。

藝大で、小磯のエッチング制作を支えたのが、中林忠良（1937-、銅版画）でした。彼の同級生には星野美智子（1934-、石版画）、野田哲也（1940-、木版画、シルクスクリーン）、柳澤紀子（1940-、銅版画）など、現在も第一線で活躍する版画家たちがいます。第3章「藝大 版画研究室の教え子たち」では、この4人の作品を紹介します。110点の作品と資料多数を展示します。

開催日時 **11月15日（土）**
13：30～15：00

- *講師 金井 紀子氏（小磯記念美術館学芸員）
- *受付 10月15日（水）9：00から
窓口、電話、QRコードにて
- *定員 40名（先着順、受講料無料）
- *会場 灘区文化センター5階 会議室E
神戸市灘区深田町4丁目1-39
TEL（078）841-1711

